

令和3年度

みんなでのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」 全2公演 観客動員数 822人	海老名市文化会館、ヨコスカ・バイサイド・ポケット
子どものためのワークショップ付コンサート 「カルメン～みんなのヒーロー」 全1公演 観客動員数 108人	寒川町民センター
子どものためのステージ見学+ワークショップ付コンサート「くるみ割り人形の世界へようこそ」 全1公演 観客動員数 115人	クアーズテック秦野カルチャーホール
第56回神奈川県美術展 厚木巡回展 入場者数 230名	厚木市文化会館

令和4年度

みんなでのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」 全3公演 観客動員数 821人	寒川町民センター、もみじホール城山、鎌倉芸術館
---	-------------------------

令和5年度

みんなでのしむオペラ「ヘンゼルとグレーテル」 全2公演 観客動員数 557人	寒川町民センター、鎌倉芸術館
---	----------------

令和6年度

第58回神奈川県美術展 鎌倉巡回展観客動員数 1,194人	鎌倉芸術館
----------------------------------	-------

② インクルーシブ対応の取組

令和3年度に新設された社会連携ポータル部門と密接に連携し、以下のようなインクルーシブ・アプローチに取り組んでいます。

■ リラックス・パフォーマンスの実施

横浜の開港記念日に合わせて開催される「オープンシアター」のプログラムとして、2024年6月にバレエの名作「くるみ割り人形」ダイジェスト版をリラクソパフォーマンス公演として上演しました。客席照明を落とさない、入退場規制を設けない等の工夫を行い、どなたでも気軽に鑑賞いただける公演として上演しました。

■ 鑑賞サポート

社会連携ポータル部門と協働しながら、聴覚障害へのサポートとして、ヒアリンググループ、点字・拡大文字・白黒反転板プログラムの配布や事前説明会、視覚障害へのサポートとしてオルガンや小ホールの模型作成や事前説明会、台本貸し出しを実施し、人員や予算のリソースを勘案しながら、少しずつ拡充を目指しています。また、外国人への対応として、字幕タブレットの貸し出しを行いました。

③ 全国公立文化施設協会、神奈川県公立文化施設協議会としての活動

令和5年度～7年度まで、全国公立文化施設協会関東甲信越静支部の会長館として、支部委員会や課題検討会を主宰し、関東甲信越静にある公立文化施設の活動を牽引しました。また神奈川県公立文化施設協議

会の会長館として、協議会の運営にあたり、県民ホール内に事務局を置き、会長をはじめ事務局長他数名の職員が協議会の事業運営、情報提供、各施設・各協議会との調整、連絡を行いました。

④ 主な自主制作事業の実施

■ 県民ホール開館50周年記念オペラシリーズの上演

自由な芸術表現の可能性を無限に秘めた作品を、現代に生きる我々の視点で新しく創り上げ、人々の心に新たな波を起こしたいという、一柳慧・故神奈川芸術文化財団名誉芸術総監督の考えに、各界のアーティストが応え、日本では類を見ない新しいプロダクションによるオペラ上演を行いました。

「浜辺のアイシュタイン」 令和4年10月上演 入場者数2,528人

第31回三菱UFJ信託音楽賞、第35回ミュージック・ペンクラブ音楽賞受賞

「ローエングリン」 令和6年10月上演 入場者数1,920人

■ C×Cシリーズの実施

Composer、Classic、Contemporaryという3つの「C」と、室内楽やオルガン、バロック音楽を自由な発想でクロスし、過去、現在、未来をひとつに繋げ、脈々と営まれる創造の世界を楽しんでいただくシリーズとして県民ホール小ホールで取り組み、計39企画を実施しました。令和7年度にはジャズ部門を本企画に加え、新たな音楽の世界を開拓します。

■ 感動を分かち合う事業の実施

年末には毎年恒例の「ファンタスティック・ガラ・コンサート」を実施。オペラ・バレエ・オーケストラが一挙に鑑賞できるコンサートとして、年末の風物詩として神奈川県民に受け入れられてきました。また、神奈川フィルハーモニー管弦楽団、神奈川県下や全国で活躍するバレエ団等とタッグを組み、数多くの作品を上演しました。

■ オルガン事業

日本の公立文化施設としていち早くパイプオルガンを導入した県民ホールのオルガンの歴史を継承し、県民ホールオルガンアドバイザーの中田恵子氏監修のもと、初心者から楽しめるプロムナードコンサートや、歴史に残る作曲家と現代のアーティストのコラボレーション企画「C×オルガン」シリーズ等を実施してきました。

■ 県民ホールギャラリー

日本でも最大規模の企画公募展「神奈川県美術展」を神奈川県との共催で毎年開催し、数多くの県民の創作活動参加のポータル機能としての実績を上げてきました。また、毎年県民ホールのオリジナル企画展を制作し、新進現代美術アーティストの登竜門として数多くのアーティストが参画しました。

⑤ 県民ホール休館前イベント「ありがとう神奈川県民ホール」の実施

令和7年3月に休館した県民ホールの最終月を「ありがとう神奈川県民ホール」月間とし、神奈川県やイベント実施団体と協力しながら、さまざまなイベントやポスター展等を開催し、休館前ににぎわいを創出しました。また、期間に合わせて記念グッズの制作・販売を行いました。

⑥ 施設運営における実績

- ・令和5年6月に老朽化のため県民ホールの休館が発表された後も、利用者のニーズに耳を傾け、高い利用率や来場者数を誇り、アーティストや来場者の意見を聞きながら施設運営を行ってきました
- ・耳や言葉が不自由な方へのスムーズな対応のための筆談ボードを利用窓口に設置し、またホールロビー内の階段の視認性を向上させるために階段の縁に彩色し、来場者の転倒やケガのリスク軽減させるなど、アクセシビリティを高める工夫を行いました。
- ・平成19年より「劇場運営マネジメント講座シリーズ」を開催し、主に来場者向けのマネジメント、インクルーシブ対応等についての研修会を実施してきました。
- ・バリアフリー・UDの街づくりを知ってもらうことを目的に、神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議が主催する「バリアフリーフェスタかながわ」に出展し、県民ホールのバリアフリーの取り組みをアピールしました。

芸術劇場

① 全国・神奈川県内の公立劇場等との連携

■ 全国における自主制作事業の上演実績（神奈川県外）

令和3年度

「未練の幽霊と怪物—『挫波』『敦賀』—」 全5公演 観客動員数 2,893人	穂の国とよはし芸術劇場、兵庫県立芸術文化センター
「近松心中物語」 全8公演 観客動員数 4,679人	北九州芸術劇場、穂の国とよはし芸術劇場（*） 兵庫県立芸術文化センター 枚方市総合文化芸術センター、まつもと市民芸術館
「アルトゥロ・ウイの興隆」 全6公演 観客動員数 19,136人	ロームシアター京都、豊洲 PIT
「ラビット・ホール」	兵庫県立芸術文化センター（*）

（*）は、新型コロナ陽性者発生のため中止

令和4年度

「ククノチ テクテク マナツノ ボウケン」 全3公演 観客動員数 262人	久留米シティプラザ、穂の国とよはし芸術劇場
「夜の女たち」 全10公演 観客動員数 7,089人	北九州芸術劇場、穂の国とよはし芸術劇場 山口市民会館、まつもと市民芸術館 兵庫県立芸術文化センター
「星の王子さま-サン=テグジュペリからの手紙-」 全4公演 観客動員数 3,154人	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール JMS アステールプラザ、熊本県立劇場

「蜘蛛巣城」 全5公演 観客動員数 3,126人	兵庫県立芸術文化センター 枚方市総合文化芸術センター、やまぎん県民ホール
-----------------------------	---

令和5年度

「さいごのひとつ前」 全6公演 観客動員数 1,153人	久留米シティプラザ、まつもと市民芸術館 美濃加茂市文化会館（かも～る）
「くるみ割り人形外伝」 全4公演 観客動員数 1,274人	穂の国とよはし芸術劇場、まつもと市民芸術館 J:COM 北九州芸術劇場
「SHELL」 全2公演 観客動員数 631人	京都芸術劇場 春秋座
「ジャズ大名」 全5公演 観客動員数 6,524人	神戸文化ホール、刈谷市総合文化センター（*） 高槻城公園芸術文化劇場

（*）は、新型コロナ陽性者発生のため中止

令和6年度

「ライカムで待っとく」 全6公演 観客動員数 1,241人	ロームシアター京都、久留米シティプラザ 那覇文化芸術劇場なは一と
「らんぼうものめ」 全3公演 観客動員数 669人	いわき芸術文化交流館アリオス、まつもと市民芸術館
「花と龍」 全6公演 観客動員数 2,690人	オーバード・ホール、兵庫県立芸術文化センター J:COM 北九州芸術劇場

■ そのほかの全国の公立劇場等との連携

- ・令和3年度 まつもと市民芸術館企画制作の「スカパン」を主催事業として大スタジオで上演
- ・令和5年度 舞台技術講座「高所作業における安全対策～落下を防ぐ～」、令和6年度 舞台技術講座「舞台演出における無線制御と関連法令～『技適』って何？」を東京芸術劇場と共催

■ 神奈川県における自主制作事業の上演実績

令和3年度

カナガワ・ツアー・プロジェクト 「冒険者たち～JOURNEY TO THE WEST ～」 全6公演 観客動員数 1,498人	川崎市アートセンター アルテリオ、杜のホール はしもと、大和市文化創造拠点シリウス（*） 厚木市文化会館（*）、小田原市三の丸ホール ヨコスカ・バイサイドポケット
--	--

（*）は、新型コロナ陽性者発生のため中止

令和5年度

「さいごのひとつ前」 全6公演 観客動員数 1,153人	ハーモニーホール座間、逗子文化プラザホール
---------------------------------	-----------------------

カナガワ・ツアー・プロジェクト第二弾 「箱根山の美女と野獣」「三浦半島の人魚姫」 全8公演 観客動員数1,331人	ハーモニーホール座間、川崎市アートセンターアルテリオ 小田原市三の丸ホール、逗子文化プラザホール 茅ヶ崎市民文化会館
---	--

このほかに、令和4年度には、地域創造「公共ホール創造ネットワーク事業」モデル事業として、アウトリーチ「創造するカラダ」を、小田原市、厚木市、相模原市、茅ヶ崎市の小学校で実施しました。

② 国際共同制作、招聘公演

■ 主催事業における国際共同制作の実績（一部予定）

「外地の三人姉妹」	韓国の劇団 第12言語演劇スタジオ（および東京デスロック/国内の劇団）との共同制作 令和5年11～12月に大スタジオにて上演
「品川猿の告白 Confessions of a Shinagawa Monkey」	スコットランドの劇団 Vanishing Point との共同制作 令和6年11～12月に大スタジオにて上演 令和7年2～3月にイギリス グラスゴーおよびダンディにて上演
「黙れ、子宮」	韓国国立現代舞踊団（およびケダゴロ/国内のダンスカンパニー）との共同制作 令和6年11月に韓国ソウルにて上演 令和6年12月に大スタジオにて上演
「ダンスマラソンエクスプレス 横浜～花巻」	フランス ストラスブール・グランテスト国立演劇センターとの共同制作 令和7年7月に大スタジオにて上演予定 令和7年10月にフランス ストラスブール他にて上演予定

■ 主催・共催事業における招聘公演の実績（一部予定）

「イスラエル・ガルバン 春の祭典」	令和3年6月 （共催）主催者 DanceBaseYokohama と連携して、スペインより招聘
「Le Tambour de soie 綾の鼓」	令和3年12月 SPAC と連携して、フランスより招聘
ブラレヤン・ダンスカンパニー「LUNA」	令和4年12月 YPAM 2024 のプログラムとして、台湾より招聘

イタリア コンテンポラリーダンスショーケース	令和5年12月 YPAM 2024のプログラムとして、イタリアより招聘
「ベック」	令和6年7月 ロームシアター京都と連携して、スコットランドより招聘
「ディドーとエアネス」	令和6年12月 YPAM2024のプログラムとして、シンガポールより招聘
「CARCAÇA (カルカサ)」 (予定)	令和7年10月 ソウル国際舞台芸術祭と連携して、ポルトガルより招聘予定
ネザーランド・ダンス・シアター 来日公演 (予定)	令和7年11月 (共催) 主催者 DanceBaseYokohama と連携して、オランダより招聘予定

③ 古典芸能への取組

古典芸能を現代に繋げる取組として、<つたえつなぐ>という古典芸能シリーズを立ち上げました。令和6年度からは、国立劇場と連携し、伝承されてきた日本の古典芸能を、現代演劇やコンテンポラリーダンスに繋がる舞台芸術として、古典芸能の愛好者だけでなく、観たことがない観客、また演劇やダンスのアーティストらに、その魅力や表現力を紹介する「<つたえつなぐ>観てよみ解く～実演&レクチャー～」を継続して実施しています。

④ 「カイハツ」プロジェクトの実績

劇場が常に考える場、豊かな発想を生み出す場となることを目指し、令和3年度から継続して取り組んでいる「カイハツ」プロジェクトの実績の一部を列举します。

■ 企画・人材カイハツ

テーマ：鶴屋南北『東海道四谷怪談』二幕目「髪梳き」の場面を「私たちの、日常の身体」で演じることは可能か	令和3年12月 企画者：大池容子（演出家）
テーマ：日本未上陸の海外ミュージカルへの取組み。実験的な作品の上演の可能性、そして新たな演出や音楽の可能性を探る。	令和4年3月、令和5年4月 企画者：田中麻衣子（演出家）
テーマ：海外の児童文学小説を用いた、子どもとかがつて子どもだった大人のための劇場作品創作の可能性を探る。	令和4年11月 企画者：桐山知也（演出家）

テーマ：日本未上陸の海外戯曲への取り組み。言語が一つのテーマとなる実験的な作品の日本語上演、新たな演出の可能性を探る。	令和5年12月 企画者：大澤遊（演出家）
テーマ：アクティブ・アナリシスを実践し、ウクライナ戯曲を読む。	令和6年10～11月 企画者：池内美奈子（俳優指導、演出家）
テーマ：現代サーカスやパントマイムのパフォーマンスによる演劇的作品の可能性を探る。	令和6年12月 企画者：目黒陽介（ジャグラー、演出家）

■ 創作プロセスカイハツ

伊藤郁女×長塚圭史 ワークショップ	令和3年12月、令和4年12月、令和6年6,7月 フランスを拠点に活動する振付家・ダンサーの伊藤郁女と長塚圭史による今後の新作公演に向けたワークショップ ※「ダンスマラソンエクスプレス 横浜～花巻」として令和7年7月に上演予定
劇団ヴァニシング・ポイント ワークショップ	令和4年5月、令和6年6月（@グラスゴー） スコットランドの劇団ヴァニシング・ポイントと国際共同制作の可能性を探るワークショップ ※日英国際共同制作 KAAT×Vanishing Point 『品川猿の告白 Confessions of a Shinagawa Monkey』として令和6年11月～12月に上演
ボン・パーク・原サチコ ワークショップ	令和6年7月 ドイツの作家であり演出家のボン・パーク氏と俳優の原サチコ氏によるワークショップ

■ 戯曲カイハツ

同時代性の高い海外戯曲をリサーチ、翻訳し、また近代現代の優れた日本戯曲を発掘して、リーディングやディスカッションを行っています。

■ カイハツ・ワークショップ

ジャック・ルコック国際演劇学校 「LEM（レム）—空間と身体の研究室」	令和4年8月 フランスより講師を招聘し、俳優、舞台美術家、演出家、絵本作家らが参加した、共に空間と身体の関係性を考えるワークショップ
ジャン＝バティスト・アンドレ×瀬戸内サーカスファクトリー「重力と戦う身体—身体バランスを用いたアクロバット」	令和5年10月 フランスを拠点に活動する現代サーカスのアーテ

	イストのジャン＝バティスト・アンドレによる重 力と戦う身体を体験するワークショップ
KAAT×国立劇場「文楽人形遣いを知る」	令和6年3月 国立劇場と KAAT 神奈川芸術劇場が協働し、現代 演劇やコンテンポラリーダンスのアーティストに 向けた古典芸能ワークショップ

⑤ インクルーシブ対応への取組

令和3年度に新設された社会連携ポータル部門と密接に連携し、以下のようにインクルーシブ・アプローチを進めています。

■ 「視覚言語がつくる演劇のことば」

令和2～4年度にかけて、視覚言語に軸を置いた演劇体験をろう者と聴者がつくるプロジェクトを、知見を増やした人を育てる、人材育成事業として実施しました。

■ 「リラックスパフォーマンスを考える」

令和5～7年度にかけては、従来の劇場空間では芸術鑑賞に不安がある方にも安心して鑑賞できるように配慮された公演形態である、リラックスパフォーマンスを研究し試行するプロジェクトを、同じく人材育成事業として実施しています。この一環として、令和6年度には、「花と龍」にて、『やさしい鑑賞回』を実施しました。

■ 鑑賞サポート

社会連携ポータル部門と協働しながら、聴覚障害へのサポートとして、字幕やヒアリンググループ、台本貸し出しや事前説明会を、視覚障害へのサポートとして音声ガイドや触覚模型を使った事前説明会等を実施し、人員や予算のリソースを勘案しながら、少しずつ拡充を目指しています。また、外国人への対応として、横浜国際舞台芸術ミーティング（YPAM）の時期に上演する作品には、英語字幕を提供しています。

⑥ 劇場広報活動、地域との連携

長塚芸術監督の方針のもと、ひらかれた劇場を目指し、多様な劇場広報と地域連携に取り組みました。

- ・令和3年度より、劇場広報紙を一新し、タブロイド判の KAAT PAPER を定期発行しています。劇場での配布や折り込みだけでなく、市内・県内各所への配架を行っています。

- ・同じく、令和3年度より、長塚芸術監督が主催事業のアーティストと共に作品を語るウェブラジオ RADIO KAAT を開始し、継続しています。

- ・翌年度の年間ラインアップ発表会を毎年2ないし3月に開催し、広くマスコミ、関係者への広報の機会としています。また、シーズンチケット購入者を見学に招くなど、観客と繋がる場として有効に活用しています。

- ・第4期指定管理期間に開始した小口寄付は、「キッズプログラム」「鑑賞サポート」といった用途を明らかにし寄付を募っており、芸術劇場の取組を広報する役割も果たしています。

- ・横浜中華街とのタイアップとして、芸術劇場公演のチケット提示により中華街で特典を受けられる企画を継続しています。また、春節には、アトリウムでランタン展示を行い、地域との結びつきを強めています。
- ・令和6年度の事業「花と龍」では、元町SS会との連携により、舞台上での屋台出店を実現し、劇場と地域ににぎわいを実現しました。

⑦ 施設運営における実績

第3期より誘致を続けている劇団四季の長期公演は、令和4年度「ノートルダムの鐘」、5年度「クレイジー・フォー・ユー」、6年度には「オペラ座の怪人」と、同団の代表作の上演が続き、延べ66万人を動員し、県民の鑑賞ニーズに応えるとともに、劇場の認知度アップに大きく貢献することができました。また、令和3年度は、劇団四季の長期公演が行われない年でしたが、利用者誘致の営業努力も功を奏し、宝塚歌劇団はじめ多様な公演の利用を誘致し、鑑賞機会の提供を維持、継続しました。

令和5年1月には、芸術劇場で初となる試みとして、実際に観客をいれての避難訓練「避難体験 in KAAT《寄席》」を、続いて令和7年1月には、第2回「避難体験 in KAAT#2《お笑いライブ》」を実施しました。多くの観客が実際に避難階段を使ってホールから避難する、という体験を通して、机上では気がつかなかった課題もみえ、劇場の防災・危機管理への意識を高める非常に有意義な取組となりました。

また、利用者や来場者の声からニーズを聞き取り、利便性と安全性を高め、また「ひらかれた劇場」として相応しい施設を目指して、照明やサイン、ポスターボードの増設などに取り組みました。さらに、神奈川県と連携し、託児サービス対象公演の拡充を図りました。

音楽堂

① 音楽堂室内オペラ・プロジェクト

音楽堂の音響特性を活かし、国内外の優れたアーティストと協働し、他には類をみない室内オペラの制作・上演に取り組んできました。

令和3年10月	ブルーノ・ジネール作曲 オペラ「シャルリー～茶色の朝」（日本初演）
令和4年10月	ファビオ・ビオンディ指揮 エウローパ・ガランテ ヘンデル「シッラ」日本初演 ※第21回佐川吉男音楽賞 奨励賞受賞
令和5年10月	鈴木優人指揮 バッハ・コレギウム・ジャパン ヘンデル「ジュリオ・チェーザレ」
令和7年2月	濱田芳通&アントネッロ モンテヴェルディ オペラ「オルフェオ」

② 国内外一流アーティストによる演奏会

開館以来国内外の一流アーティストによる演奏会を実施しており、その歴史を踏まえた演奏会を継続開催しています。

令和3年度	アンサンブル・アンテルコンタンポラン（室内オーケストラ）
令和4年度	スティーヴン・イッサーリス（チェロ）
	レ・ヴァン・フランセ（木管アンサンブル）
令和5年度	イアン・ボストリッジ（テノール）
	ファビオ・ビオンディ（ヴァイオリン）
令和6年度	2人のアムラン（2台ピアノ）
	スティーヴン・イッサーリス（チェロ）
	ベルチャ弦楽四重奏団&エバーヌ弦楽四重奏団（弦楽八重奏）

③ アーティスト育成事業「紅葉坂プロジェクト」

故 一柳慧 神奈川芸術文化財団名誉芸術総監督の監修のもと、音楽表現の在り方に新しい可能性を提示する企画の公募を企画し、実施しました。主として若手アーティストからの企画を採択し、春に公開プレゼンテーション、夏に本公演の実施というサイクルで令和3年度より4回実施し、9組のアーティストを登用しました。Vol.2で採択されたコントラバス奏者、山本昌史は後に第24回佐治敬三賞を受賞しています。

④ 若年層に向けた取組

■ 公開リハーサル

神奈川フィルハーモニーと協働し、令和元年度より継続的に共催公演開催日の午前中に無料の公開リハーサルを開催しました。

■ 子どものための音楽堂

多文化共生をテーマにした0歳児から入場可能なイベントを令和4年度より夏休み期間に開催し、ファミリー層や多国籍の方々を集客しました。

■ 音楽堂インターン

事業制作の専門人材の育成を目的に、大学生・大学院生を中心としたインターンを受入れ、実践の場で学ぶ機会を提供しました。

■ 音楽堂アウトリーチ

アーティストを学校に派遣し、教職員を通じて子どもたちへ音楽の楽しみを普及していく取組を令和4年度より毎年実施しました。

■ 音楽堂ファミリーデー

0歳から入場可能なイベントを開館70周年記念事業の一環として実施しました。

⑤ 音楽堂70周年記念事業

令和6年11月4日に開館70周年を迎えた神奈川県立音楽堂で、1週間に渡り、過去音楽堂で行われた催事のポスター展、演奏会付き建築見学会、ファミリーデー（再掲）、記念ガラコンサート等のイベントを集中的に開催しました。また、記念ロゴやグッズを作成し、70周年のPRに努めました。

⑥ 地域連携

■ 紅葉ヶ丘地域の活性化事業

横浜市西区の紅葉ヶ丘文化ゾーンを形成する「神奈川県立音楽堂」「神奈川県立図書館」「神奈川県立青少年センター」「横浜能楽堂」「横浜市民ギャラリー」の5館が連携し、紅葉ヶ丘エリアを文化で盛り上げる地域活性化事業（通称：紅葉ヶ丘まいらん）を毎年実施しました。

また、神奈川県主催の「紅葉ヶ丘ひろばの活性化事業」に共催し、地域の活性化に貢献しました。

■ 「青少年センター子どもフェスティバル・子ども会大会」

神奈川県立青少年センター主催の若年層向けイベントに、音楽堂ブースを出展し、企画に参加しました。

⑦ 施設運営における実績

・開館から70年を経て、老朽化に対応するために神奈川県と協力し、劇場扉、インターカムシステム、防犯カメラなどの設備更新を行いました。また施設老朽化に対応するため、神奈川県とも情報共有をしながら、適切な施設メンテナンスを行っています。また、令和5年度より開始した音楽堂への小口寄付金を財源の一部として、破損した客席座面や背パットの一部の修復作業を行いました。

・音楽堂の建築の魅力を伝えていく建築見学ツアーをボランティア団体と協働で実施しました。

・来場者の利便性を図るため、主催事業や一部共催事業で、最寄りの桜木町駅からのシャトルバスの運行を行いました。

・神奈川県助成金を活用し、これまで主催事業のみで開催していた託児サービスを一部共催事業でも実施はじめ、子育て中の親世代も安心して芸術文化活動に参加できる環境を整えています。

(2) 県又は他の自治体における指定取消しの有無について記載してください。

県又は他の自治体における指定取消しはありません。